

2026
5 May

KAN No. 242

TAJIKI



伝統をこれからも
繋いでいく



櫛田宮の春の例祭として長い歴史を持つ「みゆき大祭」。約600人が旧長崎街道などを練り歩く「太神楽」は、尾崎東分・西分地区の人々によって守られてきました。世代を超えて受け継がれる伝統と、担い手たちの想いをご紹介します。

太神楽

櫛田宮
春の例祭

たからいし





地域の誇りを 次の世代へつなげたい

やながわ よしかず
柳川 芳和 さん
尾崎東分地区区長

尾崎東分地区に生まれた人にとって、太神楽は自然と関わるものです。本番2ヵ月前から練習を重ね、当日は地域の老若男女が艶やかな衣装に身を包み、場の空気も引き締まります。中でも、獅子頭を大きく振り動かす「暴れ獅子」が一番の見せどころで、観客にも楽しまれています。

私自身、若い頃は「かっこいい」という感覚で参加していましたが、40代くらいからは地域の誇りを感じるようになりました。初めて神殿で舞わせてもらったときは、うれしくて涙が出たほどです。

子どもの数が減り担い手は少なくなっていますが、地区の出身者やその子ども、孫も戻ってきて参加してくれています。この太神楽があるからこそ地域がまとまり、世代を超えたつながりが生まれる。これからも後継者を育てながら「この地域に生まれてよかった」と誇れる伝統を、次の世代へしっかりとつないでいきたいです。



地域一体となり練習に励む



みんなも舞うの練習も楽しー！



私たちは「ささら」という楽器を演奏します。100年前の人たちが使ってたもので、ひいばあちゃんの名前が入ってます。



幅広く動き回る「暴れ獅子」は躍動感あふれる一番の見どころ



私たち含め大勢で全力で獅子を暴れさせています。地元の子もたちが、大きくなるにつれて「小太鼓」「めずり」「獅子」をして「師匠」になります。年とともに徐々に文化が成り立っていく感じがします。尾崎東分・尾崎西分で交互に繋いでおり、再来年は尾崎西分ですから、今年は自分たちがしっかりとやっておかないと！と思います。



獅子のたてがみを財布に入ると金運が上がるという言い伝えもありみなさんに人気です。



太神楽(だいかぐら)とは

太神楽は、2年に一度開催の「みゆき大祭」で奉納される、地域に受け継がれてきた神事芸能です。尾崎東分・西分地区が交代で奉納を担います。

江戸時代(安政5年)には、祭りの模様を描いた大絵馬額(佐賀県重要文化財)が奉納されており、現在でも当時とほとんど変わらない行列を見ることができます。榊田宮から下の宮へ向かう「おくだり」と、榊田宮へ戻る「おのぼり」が2日間に分けて行われ、太神楽を先頭に締元行列やみこしが連なり、にぎやかな行列が続きます。

太神楽には、獅子つかいや唄い手など7つの役割があり、子どもからお年寄りまで総勢約100名が参加します。地域の人々が心をつなげてつくり上げる光景は、世代を超えて続く、伝統の力強さを今に伝えています。

3/18 「スノーピーク グラウンズ 吉野ヶ里」開業

九州最大級のキャンプ場「スノーピーク グラウンズ 吉野ヶ里」が吉野ヶ里歴史公園内に開業しました。アウトドア製品を手掛ける「株式会社スノーピーク」と県が連携してできた体験型複合施設です。施設内には弥生時代の建物をモチーフにして整備した宿泊施設やキャンプサイトを備え、物品も販売。飲食では「スターバックスコーヒー」や「みつせ鶏本舗」が入っています。3月17日に行われた記念式典では、山口知事や寛松市長が挨拶し「地域の人と盛り上げていきたい」と期待を込めました。



11/28 母子保健推進員 岸川洋子さんが全国表彰を受賞

岸川洋子さん(千代田町)が、「健やか親子21全国大会」において母子保健推進員の永年勤続と活躍が認められ「公益社団法人母子保健推進会会長表彰」を受けました。母子保健に係る様々な役割を担われ、積極的に子育て世代と関わりながら活動にご尽力いただいております。これからも、この地域で安心して子育てができるよう、子育て世帯と行政との橋渡し役となり、親子に寄り添いながら精力的に活動していただくことを期待しています。



3/17 認知症サポーター養成講座と声かけ訓練を実施

住民主体のボランティア団体「よらんね神埼」が毎週火曜日に開催している「つど居間所」で、認知症サポーター養成講座と声かけ訓練が行われ、約30人が認知症の基礎知識や接し方などを学びました。訓練では、実際の困った状況を想定して優しく声をかける方法を体験。参加者からは「勉強になった」「実際に困っている人がいたらスムーズに声をかけられそう」などの声が聞かれ、地域で支え合うまちづくりへの意識を高める機会となりました。



3/27~29

女子は神埼中が3度目の優勝 中学剣道の強豪が競う

文部科学大臣杯神埼市長旗第37回全国選抜中学生剣道大会が神埼中央公園体育館などで行われました。全国36都道府県から強豪の男女各80チームが出場。

27日の錬成会、28日のプレリーグ戦を経て、29日は決勝トーナメントがあり、女子は神埼中が7年ぶり3度目の優勝を飾りました。男子は八女学院中(福岡県)が初優勝しました。

開会式では脊振中の森田晴仁男子主将と松永妃穂女子主将が力強く選手宣誓。試合は団体戦で行い、気迫のこもった試合が続きました。



4/3

佐賀宇部コンクリート工業株式会社へ 感謝状を贈呈

佐賀市に本社を構える佐賀宇部コンクリート工業株式会社から、令和8年2月に企業版ふるさと納税の寄附を頂いたことを受け、感謝状を贈呈しました。

寄附金は、伊東玄朴記念館整備事業に活用します。

贈呈式で、代表取締役の福岡桂氏は「神埼市のために有効に活用してほしい」と話され、市長は「伊東玄朴記念館の整備で、神埼市の偉人を後世に伝えていけるよう有効に活用していきたい」と感謝の意を伝えました。



3/22

さが桜マラソン2026 弥生の風景を望みながら熱走

さが桜マラソン2026が佐賀市から神埼市を巡るコースで行われ、8454人が出走しました。

折り返し地点となる吉野ヶ里歴史公園内は、古代の原ゾーンを周回する約1.7キロの新コースが設置され、ランナーたちは「馬場ボディのエッフェル塔」や新設の「スノーピーク グラウンズ 吉野ヶ里」を望みながら熱走。

多くのボランティアの協力のもと、音楽演奏や神埼そうめん、イチゴなどでもてなしました。

